

第10回地域包括ケア応援セミナーアンケート集計結果

テーマ:「あらゆる主体の協働による地域包括ケアシステムの構築について」
～多世代共生を目指して～

日程:平成30年7月6日(金) 13時30分～16時30分

会場:さいたま新都心合同庁舎1号館 講堂

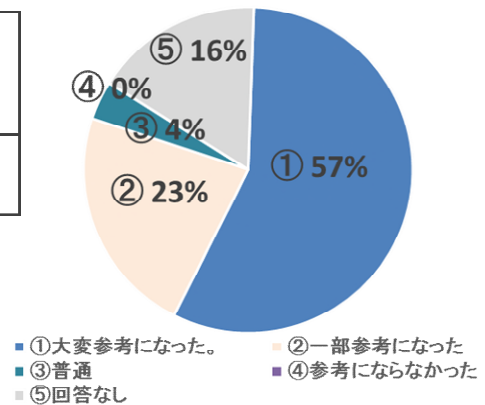
来場者数:393人

1. アンケートの回答数内訳

都県	市区町村	医師会	看護協会	医療機関	薬局	介護事業所	地域包括支援センター	大学	福祉関係団体	その他	回答なし	合計
14	81	4	1	4	2	6	19	18	9	21	2	181

2. 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。

①大変参考になった。	②一部参考になった	③普通	④参考にならなかった	⑤回答なし	合計
103	41	7	0	30	181



3. 一番印象に残った内容は何ですか。また、その理由をご記入下さい ※自由記述 116人回答

- 【埼玉県立大学田中理事長】介護というくくりにとどまらず、これからは生活支援の担い手の仕組みにプラスして専門職の力が結びつくことでケアシステムが成り立つのだということが分かりました。
- 【埼玉県】県職員が市町村に出向き支援していることに興味しました。埼玉県の取組がすごい進んでいますね。
- 【川崎市】地域包括ケアシステムを高齢者だけにとらえるのではなく全ての住民と包括するシステムがしっかり構築されていると思いました。
- 【西東京市】フレイルチェックを地域住民が一緒に行うことは住民意識の改善だけでなく、住民同士の話し合いの場所ができるという面でも良いことだと思いました。

4. あなたの住んでるまちや働いているまちにおいて地域包括ケアシステムの推進につながる特徴的な取組や頑張っている取組をお教え下さい。また、該当する自治体名(もしくは団体名、地域名等)をお教え下さい。※自由記述 49人回答

- 館林市は生活支援体制整備としての協議活動により、日常生活上の困り事に対する取組が、日常的な行動として出来るようになった。
- 川口市は『介護予防ギフトボックス』というのを行っています。運動やパソコン教室まで多岐に渡る教室があり、介護予防に力を入れています。
- 自治体が遅れている。現場は着実に状況が厳しい状況に置かれている。私たちが動き出さないとダメだ。

5. 今後、地域包括ケアシステムを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。※自由記述 59人回答

- (厚生局) 医師や看護師、PT、OT等専門職の特定機能病院の基礎教育に、地域包括ケアシステムを必修科目化、学門として位置づけをしないと、いつまでも積極的に治療が行われてしまうと。教育を見直すことに期待します。
- (厚生局・都県) 他市町村の取組を多くの人に知ってもらうことが必要と思います。その為の情報共有ができればと考えます。
- (厚生局・都県) 埼玉県のような支援がなく、地域包括ケアシステムの推進に向けた理解に自治体間で差もあるように感じます。厚生局、都県には市区町村支援を一步踏み込んで一緒に取り組んで頂きたいと思っております。
- (市区町村) 今後地域を支えるには、高齢者だけでなく、多様な世代を支える仕組みが必要だと思います。特に子育ては今後の次世代が市区町村に住み続ける上で重要だと思うので、地域のシステムを考える上で総合的に考えてもらいたいです。

6. ご意見やご要望があれば記入してください。(セミナー内容、開催場所、実施時間等)※自由記述 43人回答

- 良い事例の話が多かったように思いました。取り組む上での障害をどう乗り越えていったか聞きたかったです。
- 地域包括ケアで欠けているのは、職域にある男性かと思えます。そこにも手を入れなければ高齢者の真の自立、地域で生きるスキルの獲得は難しいと思います。
- 参考になりました。ありがとうございました。来年も開催して頂きたいと思えます。

